

水の大切さを学んだ日

奈良市立富雄第三中学校二年

眞鍋 遥汰

昨年の夏休み、母がオーストラリアへ留学していた頃にホームステイ先で出会った人が一泊二日でうちへ遊びにきた。楽しい時間を一緒に過ごし、色々文化の違いを感じたわけだが、とりわけ水に対する感覚が僕と全く違うことに驚いた。

彼女は、初めて日本へ来て観光もしたいが、日本人の普段の生活も体験したいようで、うちの普段通りの生活を一緒に過ごしてもらうことになった。買い物に一緒に出掛け、晩御飯に肉じゃがを一緒に料理したり、その他の家事を手伝ってもらったりした。彼女が皿洗いをしてくれたときだ。大きめのボウルに水をはってそこに食器用洗剤を数滴垂らすと箸や小さめの皿を入れてじゃぶじゃぶと水にくぐらせるとそのまま水切りかごにあげてしまった。かなり汚い水だったけれど、他の皿もお構いなく入れ

ていた。驚いた僕は、母がいつもしている洗
方を見本として見せた。すると、水をそんなに
出して洗うものではない。オーストラリアでは
水は貴重なんだというように言うてき
た。夜、日本人はだいたい、お湯を毎日はず
お風呂に入ることを知って驚いていた。シャワ
ーのヘッドが自由に動かせて、水圧の強さもす
ごいと言っていた。なんだか僕は、日本です
ごいのだなと誇らしく感じたのと同時にオー
ストラリアの生活は日本よりもっと大変なの
だろうと思った。オーストラリアの内陸部から
来た彼女は特に小さい頃から水不足が当たり
前になっでいて、節水しながら生活することが
習慣となっでいる。母から聞いていた通りだっ
た。

僕は水を毎日ふんだんに使っで、ぜいたくし
ていることを自覚しなければいけない。今年の
二月は全然雨が降らず、奈良の布目ダムの貯水
率が四十三パーセントを下回ったため、約三十
年ぶりに取水制限されたことを教えてもらっ

た。母は二月やたらと怖がっていた。平成の大
渇水を経験して、断水で水道から本当に水が出
ないという今の僕には考えられない出来事を
母は経験した。そのとき母は小学五年生だった
そうだが、学校の水道の蛇口をひねっても水が
出なかったことを今でも鮮明に覚えているそ
うだ。強制的に水が使えなくなるまで節水の意
識を持たないようではいけないと思う。普段の
生活から節水の意識を持つ大切さを学んだ。毎
日用意してもらっている水筒の水を必ず飲み
干すでしょう。